

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	大腸がんの予後に対する血圧および心血管疾患の影響
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 循環器・呼吸器・腎臓高血圧内科学講座 教授 山口 修
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 2031年12月31日
対象となる方	2020年1月から2022年12月までに愛媛大学医学部附属病院で大腸がんに対する精査加療目的にご入院された患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、手術時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況 等
研究の概要 (目的・方法)	高血圧は大腸がんの発生率を上昇させる要因であり、高血圧を合併した大腸がん患者さんはそうでない方と比べて予後が悪いことが知られています。高血圧の薬を内服することでがんによる死亡率が下がるという過去の研究がありますが、実際の血圧の値と大腸がんの生存率を直接比べた研究は少なく、情報が不足しています。また、高血圧に関連した動脈硬化や心不全と大腸がんとの関連についても不明な点が多くあります。そこで、大腸がんの治療を目的として当院の消化器外科に入院したことがある患者さんを対象に、入院時や退院時の血圧と、その後の臨床経過を調べることで、血圧と大腸がんの予後の関係を明らかにします。
個人情報の保護 について	収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を

	<p>特定できる情報は一切含まれません。</p> <p>なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p> <p>【情報管理責任者】心不全治療学講座 教授 池田 俊太郎</p>
お問い合わせ先	<p>愛媛大学医学部附属病院 循環器内科 檜垣 彰典</p> <p>791-0295 愛媛県東温市志津川 454</p> <p>Tel: 089-960-5303</p>